

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：岡山県立林野高等学校

活動名：みまさか学指導法の開発 ～ICTによる授業とGOAL設定～

解決すべき課題

- 1) 教員の資質向上…本校における学校設定教科『みまさか学』は、地域の現状や課題を発見し、解決のため提案・方策をチームで探究し、実践する科目である。しかし、探究活動に関する教員の知識・経験には差があるため、現在、属人的な教科となっており、『みまさか学』を一部の教員しか担当することができない状況となっている。そのため、転勤等で担当教員がいなくなると、よりよい探究活動が成立しなくなる現状がある。
- 2) 授業コンテンツ・単元目標が不明確…これまでの『みまさか学』は担当教員の経験とノウハウで生徒の探究活動を成立させていた側面が大きい。そのため、導入時に必ず生徒に伝授すべき授業コンテンツや、単元または1学期などにおける目標が不明確であった。

目標・方針：どの教員でも『みまさか学』を担当できるようにするためには、まず、『みまさか学』における探究活動のスタイルの確立が必要であると考えた。次に、これまで経験やノウハウのみで行われていた授業の中で、探究活動を行う上で生徒に必ず伝授しておく必要があるものをパッケージ化することで、どのような授業を実施すればよいかかわからないという現状を変えられると考えた。最後に、達成目標があいまいになってしまいがちな探究活動における目標・GOAL、そしてGOALに対する評価を明確にすることで、教員がGOALまでに、生徒に何をすべきか考えることもでき、課題解決に向かうと考えた。

活動内容

- 1) Chromebook(クロムブック)を活用した授業コンテンツの開発と授業記録の蓄積…年間の授業における記録(指示内容・生徒の成果物、授業内での教員のコメントなど)を「G Suite for Education」のクラスルームにより、記録・管理することにした(写真①)。また、探究活動の導入時に必要だと考えた「グループワークの効果を知る」や「現状把握の手法を知る」、「フィールドワークスキルを考える」などの授業内容を、グーグルスライドでパッケージ化した。
- 2) 『みまさか学』における活動スタイルの構築…探究活動には様々な手法や活動スタイルが存在するが、『みまさか学』については、「課題・テーマ設定、テーマの現状把握と分析、仮説と理想の姿の構築、現状と理想を埋める解決策の実践」という4つの段階を設定した。この4つの段階における生徒の活動について、授業内で必要に応じて教員がアドバイスをするだけでなく、外部講師(NPO 法人代表者)に定期的に授業に関わってもらっている。そして、年3回の活動報告会(写真③)と、今後の『みまさか学』について話し合う地域連携協議会(写真④)を開設し、地域の方やOB、行政職員に参加してもらい、生徒の活動について助言をいただくとともに、活動内容に興味関心があれば、活動の協力者になってもらうことをお願いしている。
- 3) 活動報告会をGOALと設定し、そのGOALにおける評価指標と評価方法を明確に設定した(写真②)。

活動の成果：「G Suite for Education」のクラスルームの活用により、授業内の生徒への指示とともに生徒の成果物も蓄積でき、どのような指示で生徒がどのような成果物を提出したかを、記録することが可能となった。校外の方が多く関わる活動報告会と、担当教員と校外の方で行う地域連携協議会により、これまで高校生だけでは叶えられなかった提案や解決策が実践可能になるという大きな成果を得て、属人的でなく多くの方が関わる『みまさか学』となっている。また、本校で実施している総合的な探究の時間に関する生徒の自己評価アンケートでは右の結果からもわかるようにみまさか学受講生の数値が全体に比べ高いことがわかった(表①)。

アピールポイント (アイデアや工夫)

- Chromebookの活用
- 校外の方に多く関わってもらう年3回の活動報告会と地域連携協議会

<写真①:Chromebookの活用>



<写真②:GOAL設定と評価>

GOALの「課題」について、高校生の視点で現状把握・原因分析し、仮説を立てることができる。			
評価①	評価方法 発表	評価基準 評価A:テーマ・課題について、現状を把握し原因を分析し、仮説を立てることができる。 評価B: # 、現状を把握することができる。 評価C: # 、現状把握ができていない。	観点 思考・判断・表現
評価②	評価方法 発表	評価基準 評価A:これまでの活動を他者に伝えるために、効果的な手法をいくつか使うことができる。 評価B: # 、学習した手法を使うことができる。 評価C: # 、学習した手法を使うことができていない。	観点 知識・技能
評価③	評価方法 GOALまでのプロセス	評価基準 評価A:活動の中で、様々な視点から物事を把握し、発言し、グループ内の合意形成をすすめている。 評価B: # 、様々な視点から物事を把握し、発言することができる。 評価C: # 、様々な視点から物事を把握することができていない。	観点 思考・判断・表現
評価④	評価方法 GOALまでのプロセス	評価基準 評価A:グループ内での自分の役割を、把握し、自らの考えを持ち、自主的・主体的に行動している。 評価B: # 、把握し、やるべきことを行っている。 評価C: # 、把握していない。	観点 学びに向かう力
GOALの「多様な視点に基づいて地域の現状を把握し、テーマ・課題設定に向けた解決策・提案を発表することができる」			
評価⑤	評価方法 発表	評価基準 評価A:テーマ・課題解決に向けた、解決策・提案を、多様な視点から考察し、発表することができる。 評価B: # 、解決策・提案を発表することができる。 評価C: # 、解決策・提案を発表することができない。	観点 思考・判断・表現

<写真③:活動報告会の様子>



<写真④:地域連携協議会の様子>



↑ 生徒の発表後に質疑応答やアドバイスをいただき、その後の地域連携協議会では、生徒の活動に関する今後の方向性や協力の有無などが話し合われる。

<表①:アンケート結果・みまさか学受講生感想>

- Q1 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定している
- Q2 地域の魅力を再発見し大切にしようとしている

みまさか学で人との繋がりを作ることの大切さに気づきました。大学でも活動をきっかけに多くの方と繋がって、社会福祉士の夢に向けて力をつけ、自分の可能性を広げていきたいです。この2年間、「どうしたら上手くいくか」という方法を自分たちでよく考えて、行動していくことが楽しく、充実した時間でした。(「みまさか学受講生修了レポート」より一部抜粋)

